

2004年8月13日

会社名 株式会社 高島屋  
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 弘治  
 コード番号 8233

## 2004年7月度 高島屋営業報告

- \* 本年6月1日をもって、立川店レストン街の運営を東神開発㈱に移管しました。  
 \* 分社化した4店の売上を本年に含め、立川店の前年数値を調整した全18店計前年対比を**実質**数値として表記しております。

**百貨店事業概況**    本年    -10.2    **実質**    -2.4    (前年比%)

7月度は、猛暑の影響により「サングラス」、「日傘」など季節アイテムの動きが良く、クリアランスセールが好調だった東京店・玉川店・新宿店が牽引し、関東各店は前年を確保したが、関西各店は、お中元早期割引(中元・初)による、食料品(前年比-9.2%)の6月への前倒しが大きく、また、月末土曜の台風接近もあり、前年を下回った。18店計実質前年比は-2.4%となった。

### 店舗別概況

関西	本店						関西計	
	大阪店	京都店	泉北店	岡山高島屋	岐阜高島屋	米子高島屋	本年	実質
売上	-6.2	-5.5	-6.5	-4.3	-11.2	-5.5	-19.8	-6.2
入店客数	0.1	-2.8	-2.2	3.8	-9.8	-2.6		

\* 大阪店には和歌山店・堺店、京都店には洛西店の売上を含む

関東	本店								関東計	
	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎高島屋	本年	実質
売上	3.7	-3.0	0.3	10.4	-3.7	-7.4	-1.9	-0.9	-3.3	0.3
入店客数	11.1	0.7	0.1	9.8	10.6	0.7	3.6	2.6		

\* 横浜店には港南台店の売上を含む

\* 立川店:実質-0.4%

<店舗別> 東京店では、紳士服(前年比+6.9%)、婦人服(前年比+5.4%)、婦人雑貨(同+8.3%)、特選衣料雑貨(同+24.4%)が好調に売上を伸ばし、改装後、20~30代の女性やカップル顧客の増加により、ゆかた(同+25%)や水着(同+68%)も売上を伸ばした。また、新宿店では紳士服(同+10.1%)、紳士雑貨(同+13.0%)が、玉川店では紳士服(同+8.5%)、紳士雑貨(同+13.4%)、婦人雑貨(同+22.1%)、特選衣料雑貨(同+38.5%)が好調に推移した。一方、関西各店は、紳士服(同-6.4%)、婦人服(同-6.8%)など衣料品の低迷により苦戦した。

### 広域事業概況

法人	通販	広域計
21.2	-25.6	1.2

<広域事業> 法人事業は、大型物件の受注増により前年を上回ったが、通信販売事業は、カクゴ「夏企画」、「夏特別号」において部数調整や頁減もあり、ファッション品、リビング用品共に低迷し前年を下回った。

### 総計

本年	実質
-9.6	-2.2

### 商品別概況 (百貨店協会商品区分)

	本年	実質		本年	実質		本年	実質
紳士服・用品	-5.8	0.9	身のまわり品	-3.3	2.6	食料品	-13.0	-5.2
婦人服・用品	-10.8	-2.5				食堂・喫茶	-6.6	9.9
子供服・用品	-9.3	-1.6	家具	-13.4	-7.8	雑貨	-4.4	2.2
その他衣料品	-17.3	-5.7	家電	-22.9	-14.7	サービス	9.1	12.7
衣料品計	-10.2	-2.0	その他	-15.7	-11.0	その他	-10.8	-7.1
			家庭用品計	-15.4	-10.2	合計	-9.6	-2.2

<店頭商品別> 猛暑により、婦人帽子(前年比+23%)、扇子(同+28%)、サングラス(同+21%)、バラソル(同+87%)が売上を伸ばした婦人雑貨(同+1.5%)、改装後の店舗が牽引した、紳士服(同+0.4%)・紳士雑貨(同+2.3%)・特選衣料雑貨(同+1.6%)・食堂(同+9.8%)、催が好調な美術(同+10.7%)が前年を上回ったが、婦人服(同-3.2%)、宝飾品(同-6.7%)、ハビ--子供(同-2.1%)、食料品(同-5.2%)は前年を下回った。

以上